

みかん作の作業時間について

森 国 男

(長崎県総合農林試験場)

長崎県下の昭和47～51年産みかんの生産費調査(農林省)個票を利用し、みかん作部門のみについて、主に10a当り労働時間の面から若干の分析検討を行なった。

1. 生産者手取価格との関係

生産者手取価格に影響する作業としてはせん定、施肥摘果、薬剤散布などが主要なものと考えられる。せん定作業時間は年度によるふれが大きく(47年相関係数0.329 48年0.390, 49年0.055, 50年0.723, 51年0.666), 一定の評価はできない。

施肥作業時間はかなり強い相関(0.399～0.590)を示し、みかん価格の高い旧産地の10a当り施肥時間は相対的に多く、新産地の2～5倍にも達している。

摘果作業時間もせん定とほぼ同様の傾向(47年0.029, 48年0.166, 49年0.079, 50年0.636, 51年0.407)を示し薬剤散布時間はスピードスプレーヤー、定置配管式防除施設、動力噴霧機による移動散布など採用した作業手段に差異が大きいため、簡単に結論を下せない面があるがあまり目立った相関は認められなかった(50年0.066)。

2. みかん生産諸条件との関係

みかんの10a当り総労働時間に影響をもつものと考えられている諸条件のうち、みかん面積については弱い逆相関(47年0.002, 48年-0.185, 49年-0.160, 50年-0.253, 51年-0.191)があり、面積拡大による省力効果は少ないようである。

みかん園の傾斜度と総労働時間を各県平均値を標本とする全国の相関分析ではそのふれが大きく(-0.409～0.399), いずれともいい難かった。

園芸投資額(建物を除く施設, 農機具への固定資本額)と総労働時間の相関にもふれがあり(47年0.180, 48年0.504, 49年0.054, 50年0.778, 51年0.531), 一概にはいえないが、機械化投資の省力効果は逆になっていた。

3. 残された問題点

以上とりあげた諸指標と価格および総労働時間との関係は十分な説明がなされたとはいえない。厳密に言えば労働の効果はみかんの品質について問うべきであろうし労働時間はその質についての考察が根底にあってなされるべきものと思われる。

また、指標とした数値の農家間における変動は大きく結果の解釈に当っては標本とした各農家の技術構造にまで立入った検討が必要である。

参 考 長崎県みかん生産費調査

項 目		47	48	49	50	51
集 計	戸 数	30	30	30	25	20
	成 園 面 積	70.0	76.1	89.2	78.8	84.4
	園 芸 投 資 額	16.5 万円	10.3	22.5	40.9	44.2
1 kg 当 り生産 者価格	平均	27.4 円	39.7	43.7	50.6	74.6
	最高	50.0	61.0	74.0	81.0	117.3
	最低	15.0	30.0	23.0	32.0	43.7
総 計	平均	199.4 時間	175.3	168.5	197.8	186.1
	最高	360.7	339.4	279.0	460.7	388.8
	最低	111.2	74.9	73.5	83.3	64.1
せ ん 定	平均	16.8	13.2	15.5	21.6	23.2
	最高	35.5	39.5	41.5	55.2	59.6
	最低	4.8	0.2	1.8	5.0	6.2
施 肥	平均	7.7	5.5	6.4	9.8	7.3
	最高	41.7	42.3	34.0	23.1	33.6
	最低	1.1	0.9	1.0	2.2	0.8
摘 果	平均	19.4	17.4	22.5	27.3	24.8
	最高	50.4	46.0	45.8	86.0	81.9
	最低	2.6	3.3	4.1	—	—
防 除	平均	21.9	14.0	16.3	17.7	16.1
	最高	50.4	49.2	46.6	65.1	42.3
	最低	8.1	—	7.7	4.5	12.3